

崇城大生 地元児童に贈る

菊池市教育委員会は、南北朝時代に菊池一族の繁栄を築いた15代菊池武光の成長や活躍を描いた漫画「菊池武光伝」を制作した。作品を手がけた崇城大の学生らが、同市の菊池北小の児童らに完成した漫画本を贈った。

芸術学部マンガ表現コースの学生23人が脚本やコマ割り、作画などを担当し、5カ月かけて4月に完成させた。武光が豊田十郎と名乗った時代から懐良親王との出会い、筑後川合戦など九州統一を成し遂げるまでを3部、128コマで構成。「楽しく読んでもらうため、学生たちがキャラクター作りにもこだわった」と村井健太郎准教授(55)。

学生14人が23日、同小を訪れ、6年生一人一人に漫画本を手渡した。作画や進行管理などを担当した3年の木村仁美さん(20)が「この漫画で菊池武光に関心をもってほしい」とあいさつ。児童代表が「菊池一族のことを調べている。知らないことも多いので、漫画で学習したい」とお礼を述べた。

親しみやすい漫画で郷土の偉人について学んでもらおうと、B&G財団(東京)の助成金を活用。4千部印刷し、市内の小学5、6年生などに配布する。きくち圏域電子図書館で無料公開中。市中央図書館で28日から原画展も開く。(本田清悟)

市教委が制作 「菊池武光伝」



完成した漫画「菊池武光伝」